

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連		有 ・ 無
<input type="checkbox"/> 有		
<input checked="" type="checkbox"/> 無		

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	連携体制による健康づくり(ウォーキング推進グループへの支援)事業								
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者	健康推進担当係長 二宮真由美	
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	成人・老人保健		コード	2 1 1
	項				単位施策(中)	健康づくり事業を支援する環境づくり		コード	2 1 1 3
		健康			単位施策(小)	連携体制による健康づくり		コード	2 1 1 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	健康づくりを市民レベルで推進しているボランティア団体		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		ウォーキング推進グループと協働でワークショップを進めながら実際の活動へ結びつける事ができる			
1-5 事務事業の内容	月1回のワークショップ(運営委員会)を開催。さらに17年度市民協働型で策定したウォーキングマップに沿って月1回の市民ウォーキングを健康課と協働で開催。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	推進グループとの信頼関係を築き更に推進グループのメンバーシップやリーダーシップ力を高めるため健康課はコーディネーター的な役割を担っている。	推進グループの活動は始まったばかりであり、今後活動範囲を拡大できるよう働きかけていく。	運動習慣のない市民が一人でも多く関心を持っていただけるように、市民の代表でもある推進グループからの意見(市民の声)を活動に活かし実践へ繋がるように働きかける。		
平成19年度	推進グループが主体的に取り組めるように支援。	推進グループ活動の安定化をはかった。	参加者にアンケートを取り、運動の習慣化としてウォーキングが継続できるように企画した。参加できない人のニーズを把握していく必要がある。			
平成20年度	"	事業運営の推進だけでなく、グループ員のやりがいにも通じていることが伺える。	自分がやりがいを感じる活動への参加を、自分の周りの人にもよびかけ、この活動の発展を求めている。			
平成21年度	推進グループが主体的に実施よう継続支援をした。	推進グループ員の高齢化を考慮し、負担増加にならないよう配慮を要する。	参加者の増加にともない、ウォーキングの安全性を強化したコース企画に重点をおいている。			
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	ウォーキング推進グループのワークショップ開催数		12(回)	36(回)	とよあけアクションプラン2-1の具体的な展開として結成されたウォーキング推進グループの、一般市民参加ウォーキングの会開催のための、会議開催数 【資料】ウォーキング推進グループ活動報告

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	事務事業成果指標										
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
活動実績 a(単位)	180(人)	130(人)	134(人)	144(人)							
直接事業費 b(千円)	0	31	7	0							
人件費 c(千円)	389	214	173	173							
合計コスト d(b+c)(千円)	389	245	180	173							
単位コスト d/a(千円)	参加者 当たり 2	参加者1人 当たり 2	参加者1人 当たり 2	参加者1人 当たり 1	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 【活動実績】延べ参加人数 144人 【直接事業費】 0円 【人件費】ワークショップの日で12回の開催 54時間 3,200円×54時間=172,800円
 推進グループではマップコースをアレンジして、参加者が飽きないようなコース設定をしている。グループ員による下見ウォークに基づくコースの決定、当日のグループ員の役割の確認等、楽しく安全に実施できるよう会議を開催。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(回)	12	12	12	12						
	後期目標値に対する達成度(%)	33.3	33.3	33.3	33.3						

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A						

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価		
	平成18年度	推進グループの組織力が高まりつつある中で、健康課としてはその役割を協働からグループの自立に向けて、支援へと移行できると予想される。			推進グループから出された意見やアイデアを具現化できるように、更に自立したグループへと働きかけていく。			組織が出来て1年足らずではあるが推進グループのリーダーシップやメンバーシップが高まり活動が継続している。また活動にはどのメンバーも意欲的に取組まれ市民協働事業として評価できるところである。	
平成19年度	ウォーキングの企画・運営が主体的に実施されている。今後も継続できるようにグループ活動を安定できるよう支援していく。			ウォーキングを始めるきっかけとなるような企画が具体化でき、活動への手ごたえ楽しさが実感できるよう働きかける。			青年会議所と連携して事業が展開できたが、他団体と協働して、ウォーキング推進の新たな試みにも望む姿勢でいる。		
平成20年度		〃		グループ員の増加が図れるような、働きかけへの支援。			推進グループのどのメンバーも意欲的に取組まれ協働事業として評価できる。継続していただけるよう支援した。		
平成21年度	ウォーキング推進グループ活動が主体的に運営されている。継続支援。			ウォーキング推進グループ員の増加について、継続支援。			ウォーキング推進グループ員の増加を図るため、広報を通じてpr活動をする。		
平成22年度									
平成23年度									
平成24年度									
平成25年度									
平成26年度									
平成27年度									

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			